

室戸ジオパーク世界認定10周年記念フォトコンテスト

県内外から、114点もの作品が集まりました。天然写真家の前田博史先生を特別審査員にお招きし、入賞作品は、「オリジナル フレーム切手」のデザインに採用されました。

※「オリジナル フレーム切手」は日本郵便株式会社の登録商標です。



9月17日切手の贈呈式

高知県立室戸高等学校
室戸ジオパーク推進協議会と連携協定

7月7日に室戸高校と室戸ジオパーク間で連携協定を締結しました。



サイエンスカフェの様子

サイエンスカフェ 室戸ユネスコ世界ジオパーク×7人の研究者

7月10日、7人の研究者と繋がるサイエンスカフェを、コロナ渦のため研究者はオンライン参加、参加者は会場もしくはYouTubeのLIVE配信を視聴する形で開催しました。約30名の市民の皆さんにお越しいただきました。

ガイド養成講座基礎編・応用編

7月5日～9日（基礎編）・11月6日（応用編）に、ジオパークガイドに必要な基礎知識や、インタープリテーションを使ったガイド手法を学ぶ講座を開講。



西山台地の上で撮影された2頭のニホンリス

動物カメラ「ニホンリス」を初確認

春に実施した動物調査にて、19カ所設置したカメラの内、4カ所でニホンカモシカ、そして1カ所でニホンリスを確認。室戸市内で正式にニホンリスが確認されるのは初めてです。



10月29日ジオパークセンター収録時

JAMSTECすべらない砂甲子園

室戸高校×室戸ユネスコ世界ジオパーク合同チームの「室戸岬の斑れい岩の砂」が高知県代表として熾烈なバトルを繰り広げました。結果は惜しくも準優勝。日本で2番目にすべらない砂となりました。



企画展「室戸の10人の踊り手」

11月3日から動画と肖像写真をパネル展示しました。展示期間中に1日限定の体験イベントも開催。



室戸の10人の踊り手

ユネスコ世界ジオパーク高校生国際交流会

2月4日、日本のジオパーク地域の高校生がオンラインで交流。各校での探究活動について発表しました。



ジオガイドさんに聞いた今月の岬のみどころ！（室戸市観光ガイドの会）



少しずつ春の気配を感じる季節になってきました。一雨降るたびに春が近づいてくるのを感じます。まだ肌寒いので、浜弁当をするには4月以降が良さそうです。

さて、3月頃から、室戸岬では沢山の草花が咲き始めます。トベラ、シャリンバイなど木の植物はこの時期から少しずつ咲き始め、ゴールデンウィーク頃に見頃を迎えます。草花の中でおすすめるのが「ルリハコベ」。大変可愛い花ですがとても小さいので、ぜひ目を凝らして見つけてみてくださいね。

吉良川の奥のジオサイト（日南地区地域支援員：中岡）

先日吉良川町の西ノ川と東ノ川のちょうど真ん中あたりにある岬のジオサイトへ、柿崎地質専門員と行って来ました。このジオサイトでは「佐喜浜メランジュ」と呼ばれる、泥岩、砂岩、斑レイ岩や玄武岩が混ざり合った地質を見ることができます。

実際にジオサイトに行ってみると、道があまり整ってなく、その日は目的のジオサイトを見る事はできませんでした。柿崎専門員のお話によると、驚いたことにここでは佐喜浜から吉良川まで地層が移動してきた証拠が見られるそうです。今私が地域支援員として活動している日南地区に近いこのジオサイトを、今後ガイドやツアーに活用できたらと考えています。またこのジオサイトを案内する事で、佐喜浜と吉良川を結びつける事ができたらと思います。



岬に出ている佐喜浜メランジュの地層

海岸清掃活動（室戸岬・新村）

1月22日に室戸岬清掃、2月9日に新村遊歩道の清掃活動を行いました。両日とも沢山の皆さんにご参加、ご協力いただきました。

清掃活動を行ってみると、捨てられたゴミを回収する事がどれだけ難しいかよく分かります。室戸岬海岸には、一見するとあまりゴミが無いように見えたが、一定の場所に漂着したゴミが溜まっていました。粉々の砂状になったペットボトルゴミが海岸に広がり、清掃が困難な箇所もありました。

新村海岸には、電池やアルミを燃やした痕跡がありました。燃えカスはもろく、掴むとすぐ崩れてしまう上、燃やしたゴミが燃えた場所で溶けていました。

取り除くにはゴミが付着した石ごと取り除かねばなりません。こうしたゴミが海洋生物だけでなく、私たちの健康にも影響を及ぼすと言われています。室戸の美味しい魚を食べ続けるためにも、綺麗な海を守っていきましょう。



（室戸岬）



（新村海岸）

